

附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名...第6回...安曇野市緑の基本計画推進協議会...
2	日...時...令和6年1月25日...午前9時30分から正午まで...
3	会...場...安曇野市役所本庁舎3階...理事者側控室...
4	出席者...佐々木邦博委員、百瀬陽子委員、高木一寿委員、伊藤義典委員、加部麻子委員、磯野康子委員、太田正子委員、中田信一郎委員... 安曇野建設事務所...菅原係長...
5	市側出席者...山田課長(都市計画課)、... 城取係長、白坂係長、和田主査(都市計画課公園緑地担当)...
6	公開・非公開の別...公開...
7	傍聴人...0人...記者...0人...
8	会議概要作成年月日...令和6年1月26日...

協 議 事 項 等

1. 開会

2. あいさつ

- ・能登半島地震で子どもたちが遊ぶ場として公園の需要はあった。

3. 議事

(1) 専門会議で出た意見の取組状況について

①【重点テーマ1・重点テーマ2】班

③公園の実情を踏まえたユニバーサルデザイン 様々な利用者への環境改善(資料1)

- ・ベンチの位置は、夏は日陰、冬は日なたが喜ばれる。
- ・駐車場から園内へのアクセス通路に休憩できるベンチが必要。
- ・保護者の見守りとして遊具周りにベンチがあるとよい。
- ・高さの違うブランコを設置するなど多くの子どもが遊べる環境が必要。
- ・学校で落ち葉利用のカリキュラムを作るなど、落ち葉を楽しんで遊べる環境が必要。
→実際落ち葉処理をする側になれば楽しむことはできない。街区公園では高齢者が毎日側溝に溜まった落ち葉を処理している。落ち葉利用できる公園とできない公園がある。
→落ち葉が詰まらないように側溝を整備することで対策できることもある。
- ・将来を見越して植樹しすぎないことが重要。植樹後の将来像を市民に示す。

④管理が行き届かない市内の街路樹や緑地帯 良好な景観を取り戻すための取組み(資料2)

- ・「歩行者利用率の低い道路にある不必要な街路樹や植樹マスを減らす。」
→「管理の行き届かない雑草繁茂の道路の解消、郊外の田園地帯にある植樹帯を減らす」に変更。
- ・子ども病院前県道の並木は、常念岳が見えなくなるので景観的に要らない。
- ・街路樹よりも植樹帯の雑草繁茂の方が問題。
- ・並木より休憩エリアを優先するのは良い取り組み。(自転車道など)
- ・景観住民協定(市内25カ所)で道路の草取りなどの環境美化活動を行っていききたい。

②【重点テーマ3・重点テーマ4】班

⑧公園利用の活性化（管理の促進も）に向けた情報の収集と発信（資料3）

- ・愛護会など公園を管理する側の活動情報をPRすれば活動団体の力になる。
- ・HPの公園ページの存在を知ってもらうために継続的に地道な周知が必要。

⑨緑の相談窓口機能の確保 公設による相談窓口の運営（資料4）

- ・市が窓口となり必要に応じて各部署や業者に振り分ける。
- ・窓口で受けた内容は貴重なので、今後の活動にフィードバックする。
- ・相談内容は1年ごと協議会で報告する。
- ・広報だけでなく新聞や区長会を活用し事業の周知の工夫。

(2) 今後の予定について（資料5）

4. その他

○委員の任期について

- ・委員の任期は今年の7月7日まで。今後公募を行い次回から新体制。

○安曇野パークロゲイニングの提案について

- ・観光協会主催の安曇野サイクルロゲイニングを参考に公園に特化させ継続的にイベントを行うことにより、公園への関心を高める。
- ・公園は必要な時に近隣にある場所にしか行かない。しかし、市民それぞれにあった公園が市内にはあるはずなので発見してもらう。良い面と悪い面は表裏であり利用者によって感じ方が違う。市内にある公園の新たな魅力の発掘と発信が重要。
- ・市の若手職員を募って実行委員会を立ち上げ、公園を知る機会としたい。
- ・夏休みや春休みなどに限定してもよい。
- ・子どもだけでも参加できる企画であるが、子どもはスマホをもっていないのでスタンプなどで行うと良いのでは。
- ・別のイベントに公園を参加させてもらうことも想定できる。事務負担を減らし継続的に実施する。
- ・同じ公園であっても季節によって良いところが変わる。サイクルロゲイニングは春と秋2回行っている。
- ・サイクルロゲイニングには景品がある。参加は無料。イベントのアンケートなどもある。
- ・観光協会主催のサイクルロゲイニングですでに10箇所の公園がチェックポイントになっていることを踏まえ、さらに公園の数を増やしてもらうよう観光協会に働きかけたい。

○その他

計画内施策 12 「緑の恵みを感じる講座の開催」について

- ・「緑の恵みを感じる」とあるならハンギングバスケット講座や寄せ植えコンテストではなく別の講座を開催したほうが良い。ガーデン講座は直接土や花と触れ合うので緑の恵みを感じることができる。
- ・公園内の樹木を知る講座で植栽の勉強をしてもよい。記念樹の申請のタイミングで記念樹の樹種について勉強できる講座を開くのもよい。
- ・県営烏川緑地ではカラスの学校で鳥の観察会、サルの勉強会、植物の観察会など10回以上講座を開いている。市とタイアップしながら講座を行えば良い。

公園の防災設備について

- ・近年、防災ベンチなどの需要が高まっている。防災関係の設置物を増やすことで公園に興味を持ってもらうこともできる。

5. 閉会